

氏名	寺 崎 智 行		
授与した学位	博	士	
専攻分野の名称	医	学	
学位授与番号	博乙第	2887	号
学位授与の日付	平成7年	6月30日	
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)		
学位論文題目	小児期における図形反転視覚誘発電位の発達に関する研究		
論文審査委員	教授 清野 佳紀	教授 庄盛 敏廉	教授 黒田 重利

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

健常な小児および成人221名について図形反転視覚誘発電位(PR-VEP)を発達の立場より検討し以下の結果を得た。

- 1) PR-VEPは乳児期早期より認められ、P2頂点は生後1ヵ月より全例に、N1及びN2頂点も乳児期早期より高率に出現した。P1頂点及びP3頂点の出現には発達の变化がみられ、1歳にて総ての頂点が成人並の出現率となった。
- 2) N1、P2、N2の各頂点潜時はいずれも著名な発達の变化を示し、乳児期を通じて急激な潜時の短縮がみられ、特に生後3ヵ月と1歳において顕著な短縮を認め、1歳で成人値に達した。また、その発達上のcritical ageは生後3ヵ月と考えられた。
- 3) P2潜時には性別及び頭囲による差異は認められなかった。両眼刺激による潜時が、単眼及び半側視野刺激での潜時より有意に短かいことが判明した。
- 4) NI-P2振幅は3歳以降の女性に有意に高振幅であり、性差の出現にも発達の要因の関与が示唆された。

### 論 文 審 査 結 果 の 要 旨

健常小児および成人 221名について図形反転視覚誘発電位を発達の立場より検討し以下の結果を得た。

- 1) 視覚誘発電位は乳児期早期より認められ、陽性頂点は生後1ヵ月より全例に、陰性頂点も乳児期早期より高率に出現した。
- 2) 各頂点潜時はいずれも発達の变化をしめした。
- 3)  $N_1-P_2$ 振幅は3才以降の女性に有意に高振幅であり性差の出現にも発達の要因の関与が示唆された。

以上の知見は重要な業績であり本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。